

## キャラクターを用いた地域農業振興 —ほくの里プロジェクト—

学生団体名 地域ブランディング研究会 (金沢大学)

参加学生 坂口友理・五十嵐寛太・北野裕也・片山瑞希・渡辺倫可・福田昇生・田口佳音

### 1. 地域活動の概要

JA 石川かほくは、平成 6 年の合併から 20 周年を記念して新しいイメージキャラクター「ほくの里」を選定した。まず、学生と地域の JA 石川かほくの職員が中心となり、教員も交えてキャラクターのビジュアル・性格・生い立ちなど詳細を具体的に設定した。10 月のイベントにてキャラクターを公式にてデビューさせ、グッズの考案も行った。その後も幅広いイベントへの出演や、漫画の連載、インターネットを利用した広報活動を続けている。

### 2. 地域活動の具体的な内容

日時	活動	人数
7月26日	第一回会議	学生4人 教員2人 地域8人
8月12日	第二回会議	学生4人 教員2人 地域8人
8月12日	かほく内視察	学生4人 教員2人 地域3人
8月27日	第三回会議	学生4人 教員2人 地域8人
9月24日	第四回会議	学生3人 教員2人 地域8人
10月9日	第五回会議	学生4人 教員2人 地域8人
10月21日	第六回会議	学生4人 教員2人 地域8人
10月26・27日	秋祭り	学生6人 教員2人 来場者2000人以上
12月7日	かほく内視察(漫画資料)	学生1人 地域2人
1月14日	第七回会議	学生3人 教員2人 地域8人

その他、着ぐるみ出演イベントでは、紋平柿初出荷(11月5日)・紋平柿脱渋体験(11月11日)・かほく四季まつり(11月17日)・金沢ケーブルテレビネット「まちスタ530 いまどきベスト5」(11月18日)境川部屋力士と北脇貴士トーク、歌謡&のと楽ちゃんコディナー(12月24日)かほく市学校給食試食会(1月29日)等があった。着ぐるみは動きを統一するため、学生の一人が担当している。

#### ① 会議

会議はほぼ定期的に毎月1回行われた。第一回・二回会議では全国のゆるキャラの研究や、「ほくの里」の特徴に合わせ、相撲の研究が行われた。第三回～五回会議ではキャラクターの設定について、生い立ちやプロフィール、それらをどの段階で公表していくかを議論した。第六回会議ではイベント(アグリフェスタ)の準備や着ぐるみの動きの確認、缶バッジ等グッズの考案を行った。第七回会議ではこれまでを振り返り、今後のスケジュールを見据えて戦略の立て直しを行った。



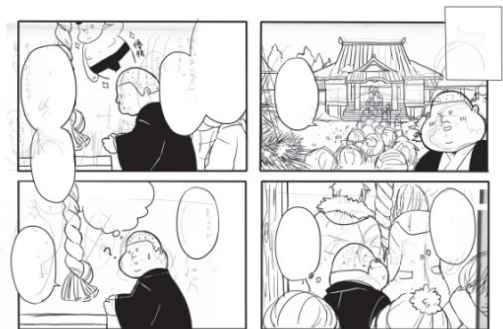
## ② イベント

津幡町舟橋 JA グリーンかほく内で行われた秋祭りにて、キャラクター「ほくの里」が正式にデビューした。その際担当学生が着ぐるみの中に入り、ステージ上でパフォーマンスを行った。また、イベントの間会場を歩きまわり地域の方への認知に努めた。会場では「ほくの里」にちなんだちゃんこ鍋が振舞われた。その他にも、「ほくの里」との記念撮影があり、撮った写真から缶バッジを作成し、その場で来場者に配布した。当日は石川テレビの取材も入った。



## ③ 広報

2013年11月号から毎月発行されるJA石川かほく広報誌（リバノス）内で「ほくの里」の漫画連載を行った。漫画は学生が担当しており、編集局には読者からの応援も届いている。加えて、キャラクターの公式デビュー後には Facebook・Twitter の運営も開始した。Facebook は、2月11日現在 69 いいねを集めている。他、石川テレビを始め、テレビ金沢、かほくケーブルテレビネット等にも取材されている。



## 3. 地域活動の成果

学生が JA 職員・地元関係者と連携し、学生の専門性や知識を活動のなかで発揮することで、地域からの要望であった JA 石川かほくのイメージキャラクターを生み出した。キャラクター、とくにゆるキャラは若者をメインターゲットとした分野である。仕掛けを考える際に、消費者となる若者と同じ視点から学生が提案を行うことで、どのようなキャラクターが受け入れられやすいか等世間のニーズをふまえたキャラクターの設定を行うことができた。これに加えて、大学の専門性を生かし、広告代理店等に依頼する必要がある商標の登録や、キャラクターを使った漫画の作成も学生

が独自に行った。また、ネット・SNSに触れる機会の多い学生から、これらを使用したキャラクターの利用法についてのアドバイスや運営の補助を行うことができた。また、着ぐるみの中に比較的時間に融通の効く学生が入って動くことで、時間や職務に拘束されることなくイベント等に参加することができた。

#### 4. 来年度の地域活動計画

##### ① 今年度の課題

今年度の反省点は、主にネット活用の方法、キャラクターの独自性の確立の2点である。ネットの活用に関しては、キャラクターお披露目後から本格的に **Facebook**、**Twitter** の運営を開始した。しかし双方で更新担当者が異なるために、キャラクター・更新内容にブレがある。また投稿する内容が具体的に決まっておらず、更新不定期で回数も多くない。

次に「ほくの里」のキャラクターの独自性の確立が急がれる。近頃はゆるキャラ戦国時代とも言われ、全国各地でゆるキャラが登場している。その中で個性的なキャラクターも多く登場しており、成功しているゆるキャラに共通していることは、キャラクターがあたかも人格を持っているかのように認知されていることである。これらと比較すると「ほくの里」はまだまだキャラクターが確立しておらず、地域に受け入れられるためにはさらなる認知が必要になる。

##### ② 来年度の活動

今年度の課題を踏まえて、来年度は SNS 等を使用しての広報活動の充実・キャラクターの独自性の確立に力を入れる。そのため、ネットでの広報活動に関して、誰が更新しても内容にブレがなくなるような各 SNS 用のマニュアルを作成する。文体や内容を統一することで「ほくの里」のキャラクターをイメージしやすくする。これに加えて、誰でも更新できるようにすることで更新回数を増やし、より多くの人目に触れるようにすることで、今以上の広報効果をもたせる。また、情報の発信の仕方も工夫する。現在 JA の広報誌で公開されている「ほくの里」漫画をネットで広く公開し、内容もさらに充実させる。SNS 以外にも、農業や食育のイベントにも引き続き出演し、地元の人をはじめ幅広い人から周知され、愛着を持ってもらうための仕掛けづくりを行う。これらに加えて、他のゆるキャラとの差別化も目指す。今年度以上に他のゆるキャラの分析を行い、「ほくの里」独自のスタイルを確立していく。その他、来年度には実際に JA の商品パッケージの活用やグッズの具体化・商品化も検討する。

#### 5. 学生の感想

実際イベント等に着ぐるみを出演させると、小さい子供たちに怖がられてしまったので、思っているよりも地元から愛されるキャラクターにするのは大変だと感じた。自分たちだけが先走ってしまうのではなく、地域の人々の意見を取り入れながらキャラクターを育てて生きたい。

#### 6. 地域活動に対する地域からの評価

これまで農業というと高齢者のイメージがあったが、ゆるキャラには若者を引き付ける力があり、ゆるキャラという存在があるだけで若者、特に子供たちが農業に目を向けてくれたように感じ嬉しく思う。

これからも、学生という若者の視点から若者が農業に興味を持てるような活動を一緒に企画して行って欲しい。ゆるキャラを用い、若者に食と地域と伝統文化を PR していくことがかほくの発展につながると信じている。